

トピック

第14回国際ダニ学会議 京都大会

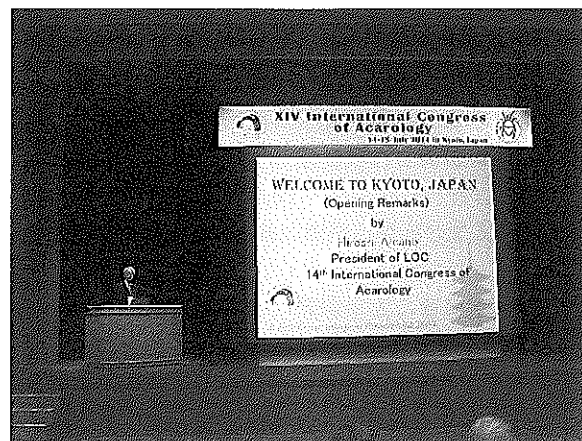
元 木 貢 (日本ペストロジー学会副会長)

第14回国際ダニ学会議が日本で初めて、日本ペストロジー学会ほか11団体の協賛を得て、7月14日～18日にかけて京都で開催された。第1回は1963年、アメリカ合衆国コロラド州のFort Collinsで、以来ほぼ4年ごとに世界各国で開催されている。折しも京都は祇園祭の会期と重なり、41ヵ国から340名と極東の地に大勢のダニ専門家が参集した。会場は京都駅近くの京都テレサで、7月13日にウエルカムパーティ、14日10時よりオープニングセレモニーで大会長である天野 洋先生、日本ダニ学会長の上遠野富士夫先生が歓迎の挨拶をされた。15日午後6時よりホテルグランピア京都で晩餐会が催された。

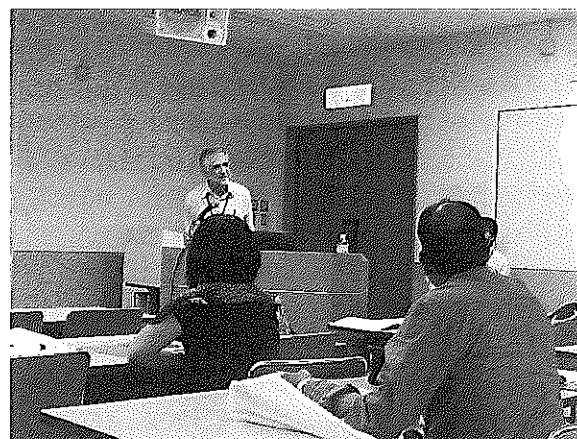
主会場はオープニングセレモニーの翌日からポスターセッション会場となり、141のポスターが会場一杯に展示され、16日と17日に発表者による質疑応答がなされた。講演会場は4ヵ所で、20のシンポジウム、38の口頭発表があった。内容はハダニなどの農業害虫、カブリダニなど天敵による生物的防除、殺ダニ剤、マダニ媒介感染症、IPMなど、生態、分類、分子形態学、疫学、防除など広範囲にわたって議論された。

7月17日には、兵庫医科大学の夏秋 優先生がオーガナイザーになって、以下に示す「ダニアレルギーのシンポジウム」が開かれた。

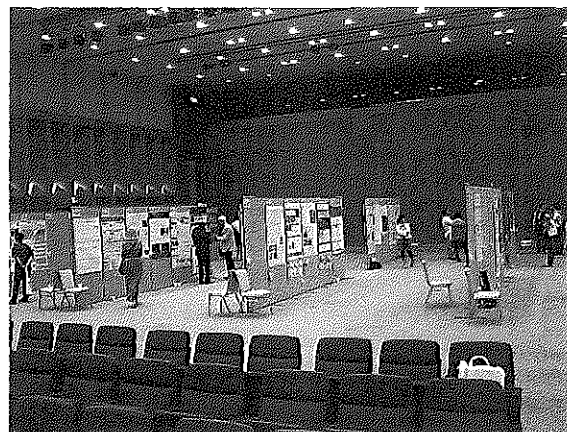
金沢医科大学・及川陽三郎先生の「NCマウスを用いたアトピー性皮膚炎の原因究明と治療」、日本環境衛生センター・橋本知幸先生の「お好み焼き粉によるアナフィラキシー」、和歌山県明神診療所・森田裕司先生の「マダニによるアナフィラキシー」、夏秋 優先生の「マダニによる発疹事例」、そして、赤穂市民病院・和田康夫先生が「ヒゼンダニによる疥癬」と題し、ご自分の皮膚での観察と治療法について講演された。



オープニングセレモニーで天野大会長挨拶



4会場で20のシンポジウム、38の口頭発表があった



141のポスターが展示された